

## 定例市長記者会見録

日 時：9月25日(月) 午前11時～11時25分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、共同通信社

本日の案件は四つです。

1番目は「ペット飼育中の高齢者世帯に『緊急時ペット救護依頼カード』を配布」についてです。

中核市に移行し動物愛護に関する業務も始めましたが、心配なケースが起きています。お年寄りが救急車で運ばれて、そのお宅に何匹も犬や猫がいる場合、そのまま放っておくと死んでしまう可能性があり、動物愛護団体さんの力を借りて引き取ってもらった事例もあります。お年寄りとのペットの関係を、まずは当事者に真剣に考えていただきたいという思いで、担当部署がいろいろ知恵を絞り、この緊急時ペット救護依頼カードを配ろうということになりました。

一宮市内の約15万世帯のうち、高齢者のみの世帯・お年寄りの夫婦(約1万9千世帯)と、独居の高齢者(約1万6千世帯)の合計は約3万5千世帯になります。まずは、地域包括支援センターを通じて、ペットを飼育中の高齢者世帯にこのカードを配布することにしていきます。配布は10月1日以降です。カードのイメージは「自宅にペットがいます。万が一の時はペットを助けてください」ということで、緊急連絡先を書いてもらうようになっています。費用については、ふるさと納税の動物愛護事業分を活用します。費用は6万4,800円で、カードを作るだけですからそんなにかかってはいません。

他の事例としては、民間での呼びかけの実施や、名古屋市で配られている防災手帳にペットの記載があるようですが、救護依頼カードで呼びかけを行うというのは見当たらず、近隣自治体では初めての取り組みだということです。高齢者の生きがいとして犬や猫を飼うのはいいのですが、今はペットも長生きですから、ちゃんと最後まで面倒を見られるかということも考えながら飼育していただきたいと思っています。

補足として、内閣府の2010年の調査では70歳以上でペットを飼っている方が24.1%で、およそ4分の1にもなります。やはりこれは早めに取り組んでおかないとまずいかなという思いもあり、まずは取り掛かりとして小さいことですが始めさせていただきます。

2番目は「女性活躍推進シンポジウム～市川房枝生誕130年記念～」についてです。

女性活躍推進シンポジウムを12月10日に開催します。今は小学校や中学校の教科書にも女性活躍の先駆者・政治家として取り上げられている市川房枝さんが、一宮市(尾西地区)に生まれてから130年ということで、それを記念したシンポジウムです。

基調講演で、講師を小説家の辻堂ゆめさんをお願いします。辻堂さんは、2021年に「十

の輪をくぐる」という小説を書かれました。この「十の輪」は五輪が二つという意味で、1964年の東京オリンピックと2020年の東京オリンピックの二つの五輪をくぐるというものです。1964年の方で一宮市内の紡績工場で働く女性たちの様子を生き生きと描いていただいたこともあり、お声掛けしたところ引き受けていただきました。

また、市川房枝さんご自身が中日新聞社さんの前身の新聞社で働いていたことや、渡米経験もあるということで、その関係の方にもお声掛けさせていただき、第2部としてパネルディスカッションを行います。

先日、NHKの番組で緒方貞子さんの特集がありましたが、緒方さんと国連との関わりは、市川房枝さんが誘ったことがきっかけだそうです。本当にすごい人だなと思います。この地域には市川房枝さんの他に、美術の世界でもうすぐ生誕120年になる三岸節子さんもいらっしゃることもあり、女性が活躍できる地域づくりに取り組んでいきたいので、こうしたシンポジウムを開催することにしました。

3番目は「地域DX・シン学校プロジェクト推進のための体制充実に向けて」です。

市役所は年度で動いており、どうしても4月1日付の人事異動後は年度内に幹部職員の異動がないことが多いのですが、世の中は大きく変わっていますので、年度途中の10月1日に次の二つのテコ入れをします。

一つ目が地域DXで、デジタル田園都市構想では岸田総理が旗を振られています。当市もアフターコロナに力を入れるため、民間企業経験者から中途採用で管理職を採用します。一宮市では年度途中に管理職をいきなり登用するのは初めてです。渡邊克也さんという方で、パナソニックやその関連会社に在籍し、医療分野の仕事もされていた経験をお持ちです。我々が力を入れたい地域DXに関して、健康や医療の手前の未病の分野などで活躍していただきたいと思います。

もう一つがシン学校プロジェクトです。昭和20年・30年代に建てられた小中学校の校舎を建て替えていきますが、単純に建て替えていくのではなく、合築や学区の見直しを幅広く検討していきます。その中心で活躍してもらおうと、教育部の平野総務課長を次長に昇進させ、関係各課との実務的な議論・調整の取りまとめで力を発揮してもらえたらと思っています。このプロジェクトも、総論は賛同していただいています。各論で各地域の議論に入ってくると、予算配分に関する話にもなってくるので、ぜひ力を入れてうまく仕切っていただければと期待しています。

4番目は「まちなかウォークブル社会実験 ～ストリートチャレンジ 2023～ を実施します」についてです。

こちらは恒例になっていますが、コロナも落ち着いてきたので、全力で本格的にやっていきたいと思っています。狙いは、駅前道路を車両通行止めにしたときに、どの程度、交通影響があるかという点や、こうしたイベントをやるときの人の回遊性、来てもらって滞在してもらえるかという点です。

そしてもう一つの狙いが、こうした公共空間を作った際の担い手づくりです。こちらから場所や機会を用意して募集しても、応募がないと困ります。七夕まつりとまでは言いませんが、この取り組みがいろいろな業界に広がれば、一宮に出店して、道路を使ってイベントをやろうと思ってもらえると思いますので、こうした担い手づくりという意味でもコツコツとやっています。そろそろ地下駐車場の改修の議論も本格化しますので、いろいろなまちなかウォークブルの社会実験の成果を出していきたいと思います。

以上、本日の説明でございます。

#### 質疑応答の概要

##### ■ペット飼育中の高齢者世帯に『緊急時ペット救護依頼カード』を配布

(記者) 多頭飼育崩壊のような事例は、市内でありますか？

(市長) 今年の夏に、動物愛護団体さんに助けを借りたケースがありました。

(記者) NPO法人と協定を締結するなどの予定はありますか？

(職員) NPO法人との協定締結の予定はありませんが、一宮市で動物愛護のボランティア登録制度があり、こちらに登録していただいた団体にご協力をいただきます。

(記者) 大抵は犬や猫が対象だと思いますが、ペットの種類は限定されていますか？

(市長) 犬猫に限りません。

(職員) 犬や猫ならまだ何とかありますが、珍しい動物だとそもそも飼える人が少ないという問題があります。ご自身がもしものときのことをしっかり考えてこのカードを活用していただきたいと思います。

(記者) このカードは、災害や急な事故・病気などの緊急時に使うということですか？

(市長) はい。緊急時を想定しています。

(記者) 緊急時ではないが、飼えなくなったから何とかしてという使い方はできますか？

(市長) 無責任な飼い方を助長するような使われ方は本意ではありません。

(記者) 使い方としては、あらかじめ頼んだ人にカードを渡しておくのでしょうか？

(市長) このカードを本人が持っていて、頼んだ人の緊急連絡先を裏面に書いておきます。例えば、救急車で運ばれたときに、本人の財布の中などに入れておいたカードを救急隊員が見て対応するというイメージです。

##### ■その他

(記者) スマートインターチェンジについて、国土交通省から新規準備段階調査の対象として採択されませんでした。市として今後の方向性は？

(市長) この9月の国土交通省の採択の期待もあつたのですが、やはりまだまだ熟度が足りないということで選ばれませんでした。市としては地元地権者の皆さんとのコミュニケーションを引き続きしっかり取りながら熟度を高めていきます。

(職員) 国土交通省さんにもアドバイスをいただきながら、これから進めていきたいと思っ

ています。準備段階調査が国から採択されてから事業化までは1年から2年というスピードで進むと伺っています。事業化に合わせて周辺の土地利用も含め、いろいろ検討を進めてまいります。

(記者) ビッグモーター—宮尾西店前の街路樹の件について、除草剤を撒いたことが認められた後の状況はどうなっていますか？

(職員) ビッグモーターさんから現状復旧するという話をいただいていますので、協議をつめているところです。書類のやりとりなどの最終的な段階です。